

2019年度放課後等デイサービス自己評価結果

児童発達支援事業所 ぶりんぐ

※ 実数 5名

チェック項目		はい	どちらとも言えない	いいえ	実情・改善目標・工夫している点
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		指定基準以上のスペースは確保しています。
	② 職員の配置数は適切である	4	1		配置基準以上の職員は配置しています。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	1	段差のない床構造にしており、スイッチやコンセントは子どもの手が届かない場所に配置しています。手すりは設置していないが、必要がしようじれば設置する考えています。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	3	2		児童発達管理責任者(児発菅)と担当とで折に触れて話し合いの場を持っています。
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施し、保護者等の意向を把握し、業務改善につなげている	5			今回で3回目の実施であり、さらに内容の改善の努力を続けてます。
	⑥ この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開している	5			年度ごとに事業所のホームページで公開しています。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	2	外部評価は実施していません。今後の検討とします。
	⑧ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保している	5			年5回の事業所内職員研修を実施しています。今年度は外部研修は実施できませんでした。来年度は外部研修実施の方向で検討します。
適切な支援の	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		必要に応じて標準化された発達検査や知能検査を実施し、保護者の願いを取り入れて療育の目標や具体的な支援を作成しています。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5			必要に応じて標準化された発達検査や知能検査を実施し、療育の目標や具体的な支援のデータとして活用しています。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		グループ活動については毎日のミーティングで話し合っています。個別のプログラムは担当と児発菅とで必要に応じて話し合っています。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			子どもの成長に応じて常にステップアップするよう心掛けています。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて課題を決め、細やかに設定して支援している	1	2	2	年間を通して固定した利用回数(週1回ないし月2回)であり、休日、長期休暇等合わせて課題の内容をを変更することはありません。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を設定している	5			子どもの発達段階に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせています。

提供	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		当事業所は個別対応を基本としており、担当者と児発菅との間で情報交換をしています。
	⑯	支援終了後には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有している	2	3		当事業所は個別対応を基本としており、特にミーティングの時間を設けてはいません。必要に応じて児発菅と担当、担当同士で意見交換しています。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	1		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	3	2		十分活用しているとは言えませんが、もう一度ガイドラインを見直し、支援に活かしていきます。
関係機関や保護者との連携	⑳	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		主に児発菅が出席しています。必要に応じて担当者の参画も実施します。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3	1	1	相談支援事業所からの要請があれば、学校と情報共有しています。ただし、当事業所は児の送迎は保護者に任せており、送迎に関する情報共有は特に行っていません。
	㉒	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3		2	嘱託医は配置しています。医療ケアが必要な子どもを受け入れた場合は連絡体制を取っていきます。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3		相談支援事業所からの要請があれば会議に参加し、情報共有、相互理解に努めます。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		1	4	小学3年生の利用までに制限しており、障害福祉サービス事業所への情報提供はしていません。
	㉕	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	1	センターからの要請があれば対応しますが、いまだ当事業所に連携、助言、研修の連絡・要請はありません。要請があれば対応します。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある			5	週1回、月2回の利用のため、日々の課題の達成が活動の中心である。他事業所との交流は企画していません。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	1	もっぱら児発菅が参加していますが、時には児発菅以外のスタッフも参加しています。一層スタッフの参加に努めます。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1		保護者への療育内容は、療育終了後その都度伝達しています。保護者との面接も療育時に毎回実施しており、共通理解を図っております。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1		児発菅と保護者との面接は利用時に毎回実施しています。子どもへの対応等についてはその都度話し合っています。
	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5			

保護者への説明責任等	③①	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5			保護者との面接を通して、子育てに関する悩みの解決を図っています。
	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3		年間3回の保護者勉強会を企画・実施しています。今後も継続し、より充実した内容を目指します。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		4	1	年6回発行予定であった「便り」が、2回しか発行できなかった。来年度は担当者を配置し、「便り」の発行に努めたい。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	5			
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1		
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っている			5	利用回数が少なく、現時点では地域住民との交流は考えていません。
非常時の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	3	1	1	マニュアルは策定していますが、職員や保護者への周知・徹底が不十分だったと反省しています。来年度には徹底・周知を図ります。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5			
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか		4	1	虐待に関する研修機会を十分に設けていませんでした。来年度は研修機会を逃さないよう心掛けます。
	④⑪	どのような場合でもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、了解を得たうえで、個別支援計画に記載しているか		1	4	今まで身体拘束をおこなうような状況が起きることはなく、対応については不十分でした。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか		3	2	保護者からの情報を得て対応しています。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	1	3	1	必要に応じて話し合っていますが、事例集は作成していませんでした。来年度の努力目標とします。

2019年度保護者による児童発達支援評価表(%で表示)

児童発達支援事業所 ぶりんぐ

※ 53名配布 48名回答 回収率91%

チェック項目		はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	94	6		
	② 職員の配置数や専門性は適切である	90	6	4	
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの配置など、バリアフリー化の配慮が適切になされている	79	17	2	2
適切な支援の提供	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で放課後等デイサービス計画が作成されている	77	15		8
	⑤ 活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	92	4	4	
	⑥ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	56	21	13
保護者への説明等	⑦ 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされた	92	4		4
	⑧ 日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	96	2	2	
	⑨ 保護者に対して面談や育児に関する助言等の支援が行われている	98	2		
	⑩ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の連携が支援されている	33	56	10	
	⑪ 子どもや保護者からの苦情について対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	50	35	2	13
	⑫ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	90	8		2
	⑬ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	69	23	4	4
	⑭ 個人情報に十分注意している	81	15	4	
非常時等の対応	⑮ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	33	42	17	8
	⑯ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	25	52	15	8
満足度	⑰ 子どもは通所を楽しみにしている	77	17	4	2
	⑱ 事業所の支援に満足している	94	4	2	

2019年度保護者による放課後等デイサービス評価集計表(%で表示)

児童発達支援事業所 ぶりんぐ

※ 32名配布 26名回答 回収率79%

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	88	12		
	②	職員の配置数や専門性は適切である	77	15	8	
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの配置など、バリアフリー化の配慮が適切になされている	88	12		
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で放課後等デイサービス計画が作成されている	96	4		
	⑤	活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	88	12		
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	12	58	30	
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされた	96	4		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	100			
	⑨	保護者に対して面談や育児に関する助言等の支援が行われている	100			
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の連携が支援されている	38	54	8	
	⑪	子どもや保護者からの苦情について対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	65	23	4	8
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	88	8		4
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	81	19		
	⑭	個人情報に十分注意している	73	19	4	4
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されている	54	38	8	
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	19	73	4	4
満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	73	23		4
	⑱	事業所の支援に満足している	85	15		